





苗木くん…

11037

本当は
あの時

苗木くんを
殺そうと
してたんです

私もこれから
出かけようと思
ってたんです

よかったですら
付き合ってた
くれませんか？



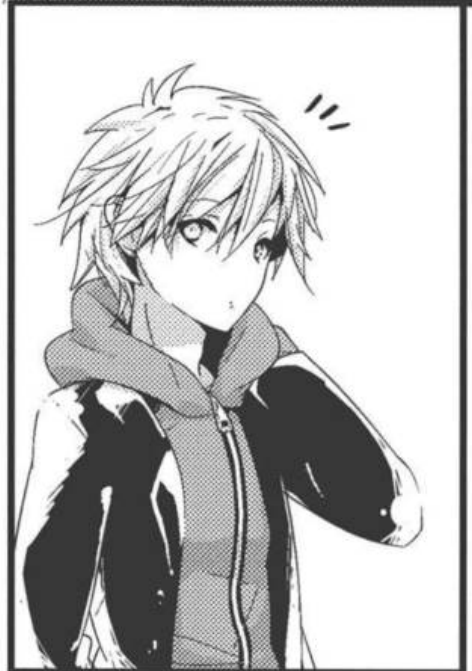
皆が互いを
疑い合う中



苗木くんなら
確実だって
思ってたから

もちろんいいよ！

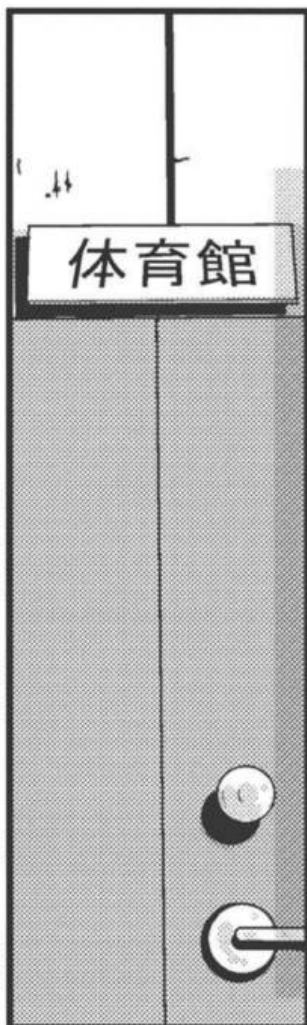
そしてそれは
予想通り…





武器になりそうなものは
ありませんね…

うっすん



体育館



けど
出かけるって
どこに？

護身用の武器が
欲しいんです

護身用!?



ほ…

その時

安心して
いるに
自分がどこかに
いました

だって武器を
見つけたら

私は計画通りに
苗木くんを
殺さなくちゃ
いけないから

でっ
でもさ…

心配しなくても…
すぐには必要には
ならないよ…

それにもし
そうだったとしても…

その時は…
ボクが守るからさ

思えば
その時から
計画は
狂い始め
ていたん
です

…いえ

実は
最初の計画では
体育館ではなく
厨房に行く予定でした
でも苗木くんが
あの時…



『タイイクカン』



苗木くんて
時々口元に
“そう”出る
んです

私だけが
こっそり
見つけた
苗木くんの
クセ

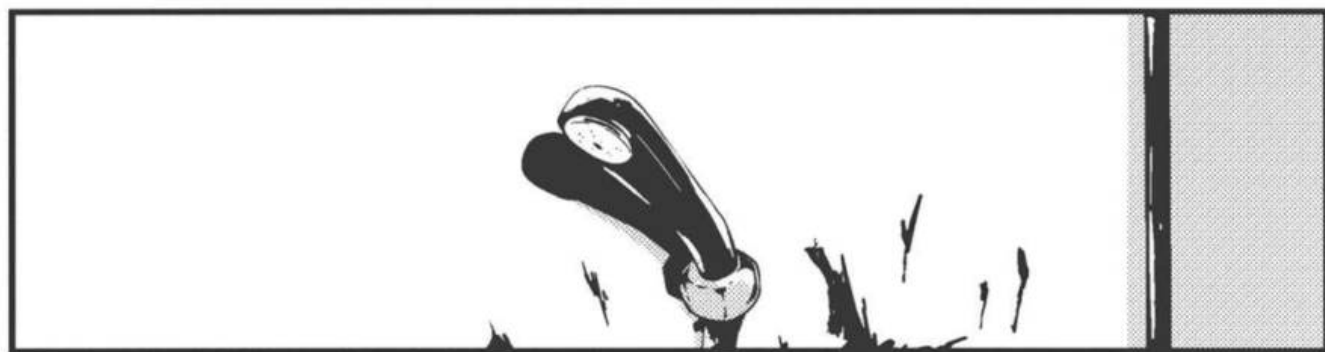
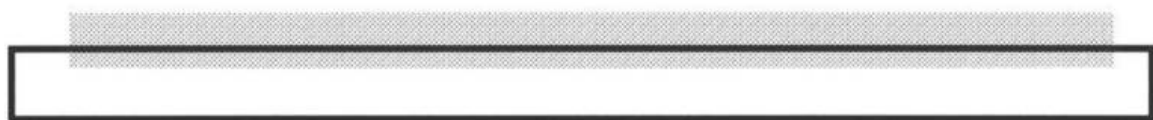
そして
それを見て私は

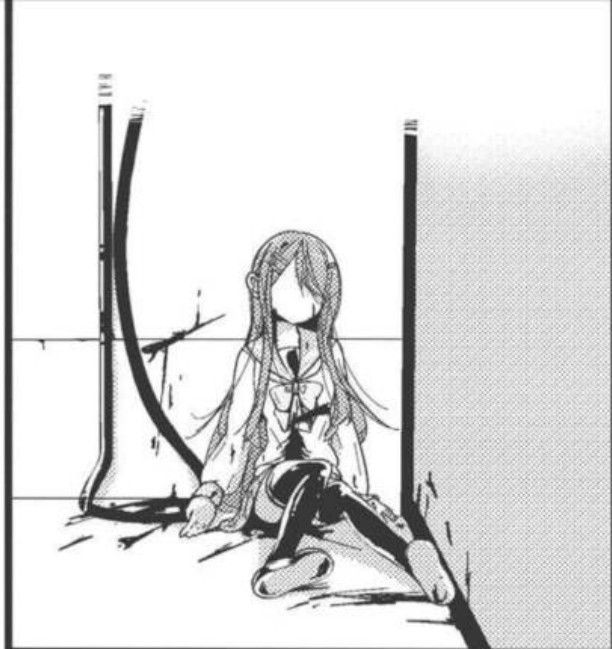
そうですね！

体育館に
行きましょう！

迷いから
思わずつられて
しまったのです







そうして
だんだんと…

それこそ
苗木くんを
殺せなくなっちゃって

私は苗木くんに
罪を被せる
道を選んだ

ぽた たっ



最低だよね

苗木くんの
ことだから

私が死んだら
きつと自分を
責めると思う

あの時部屋を
交換して
いなければ…って

そして
ずっとずっと
引きずって…

だから
そんな必要
ないんだよって

私は最低な
人間だから…
悲しむ必要なん
かないんだよって

お願い…

どうかあの人から
真実を知って

叩

カタ
カタ…



苗木くん
ごめんね...

もっと早く...

ううん

もっと別の形で
出会えればよかった



そうしたら
きっと…

慣いけ" ありがとうござ います♡

初めまして！たまと申します。
初のダンガンロンパ本…
というか同人誌自体初なのですが、
何とか無事発行することができました。
このお話は、チャプター1をクリアした時から
ずっと描きたかったお話です。
あの映像を見せられてから、
舞園ちゃんは最後の最後まで
突極の選択をしていたんじゃないかなと思います。
家族であり唯一の居場所をくれる仲間と、
なぜか無条件で信頼できてしまう苗木くん。
どちらもかけがえのないものだけど、
苗木くんへの想いまでは自覚しきれなくて
あんな結果になってしまったんだと…
したら、それはとっても私得展開だって(笑)。
とにかく、そんな思いからできた一冊ですが、
少しでもお楽しみいただけたら幸いです。

2013. 3. 17. たま

Pixiv也、です

ID:2547110



DANGANRONPA Unofficial Fanbook

RED 11



BY TAMMA
2013.03.17